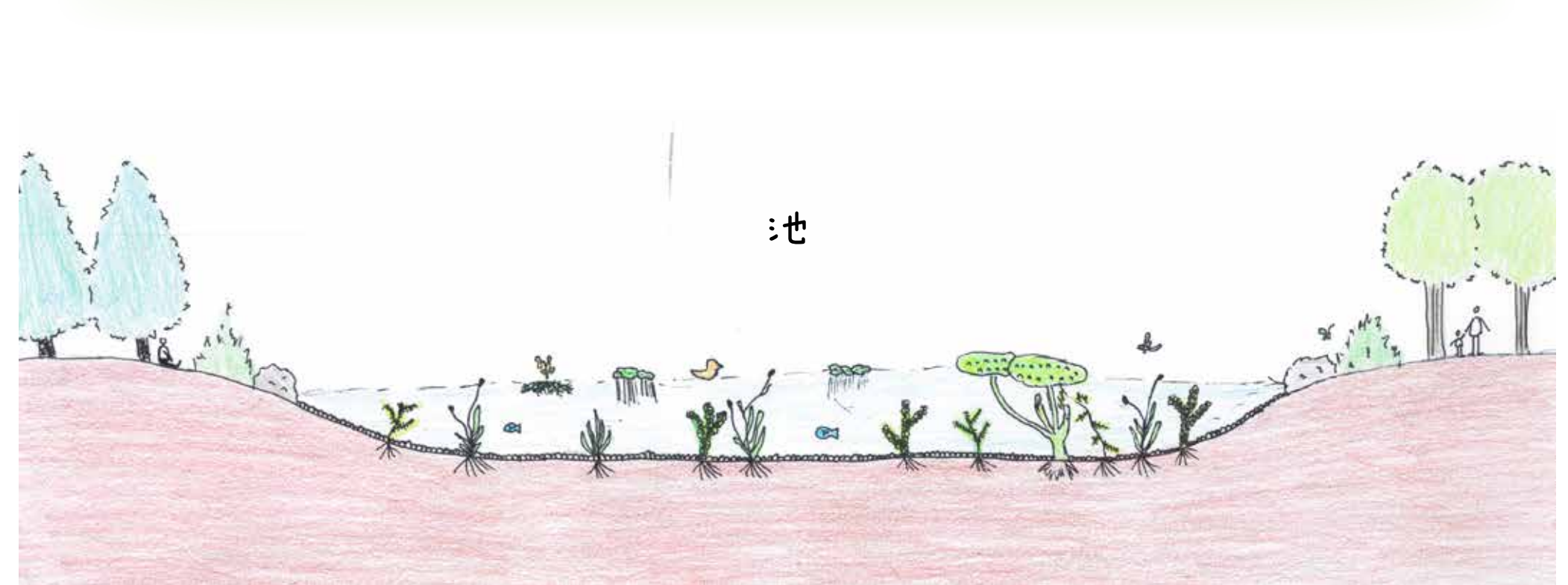
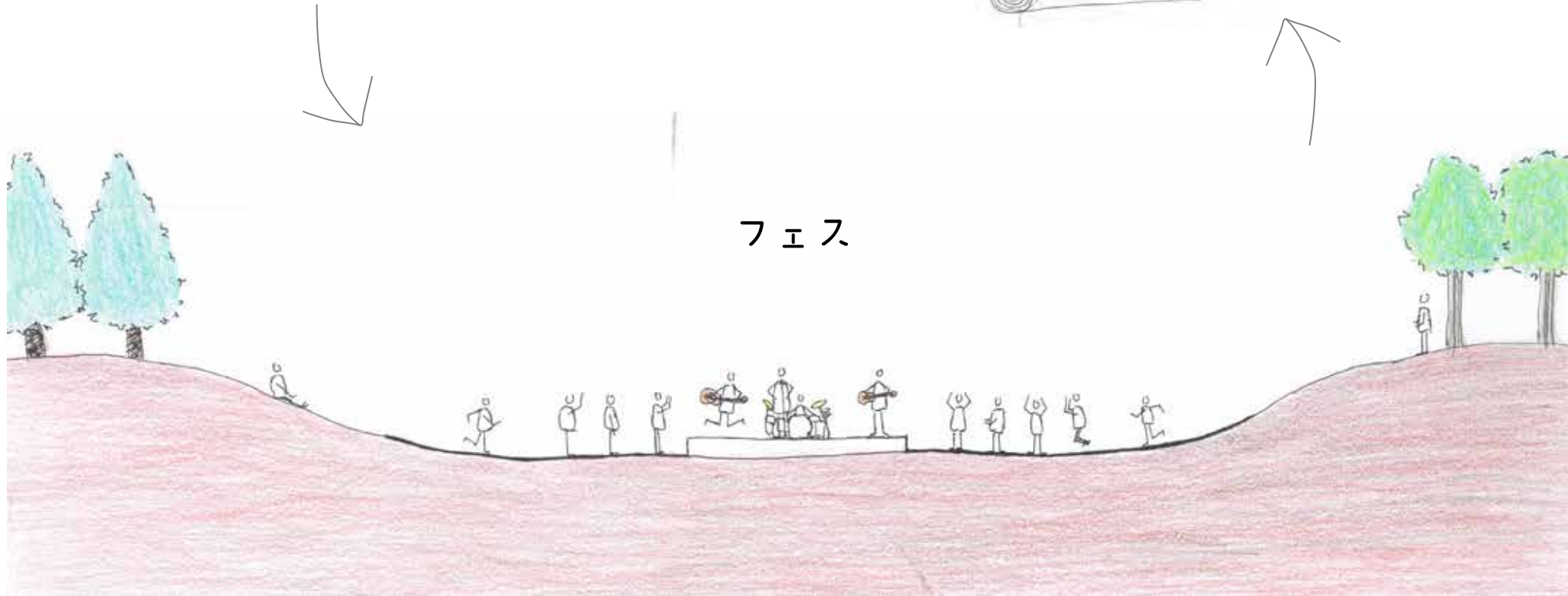
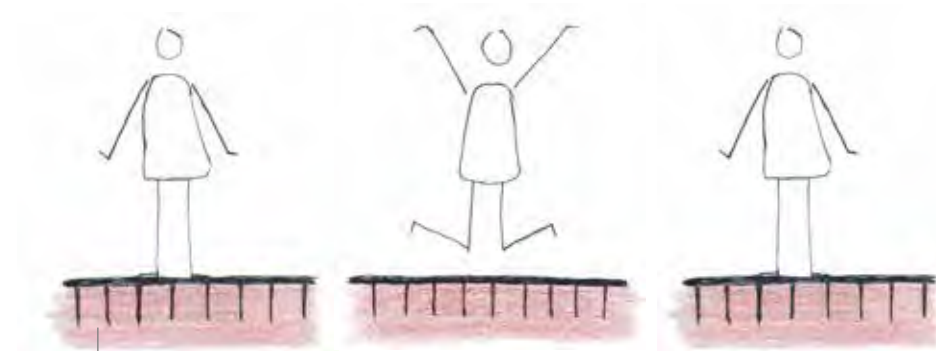


ハレといケ

ー「荒廃農地」で床発電カーペットを取り入れた野外フェスを開催して跡地に池をつくるー



ー床発電の仕組みー



100人が100回ジャンプすると1000W発電できる

※三菱電機株式会社「わずかな動きで発電する電磁誘導発電モジュールを開発」2025年2月

ライブ文化のひとつである「サークル」が発電に大きく貢献できるのでは？
サークル：観客が円を描いてフロアを反時計回りに走り回るスタイル

床を地面に固定するために釘を打ち、抜いた穴に種を植えます。

ーフェス開催後ー

みんなで池づくり⇒何度でも訪れたくなる憩いの場になる



植える植物
・沈水植物・・・セキショウモ、クロモ
・浮葉植物・・・ヒシ、オニバス
・浮遊植物・・・タヌキモ、ウキクサ
・抽水植物・・・ハス、ヨシ



小石を敷き詰める

Concept

非日常「ハレ」=野外フェス、と、日常「ケ」=池や自然

農業で使われていないうえ、農地としての復活も厳しい「荒廃農地」で野外フェスを開催します。

フェスは、開催される地域住民以外にも多くの人々が参加するイベントであり、開催地に経済効果をもたらし、地域活性化にも貢献できます。悪影響をもたらす「荒廃農地」という存在を多くの人に知ってもらえるきっかけになり、「荒廃農地」の減少にも影響を与えられます。

しかし、フェスには音響などで電力を多く使用するという課題があります。

そこで、床発電を導入し、観客がジャンプしたり、走ったり、踊ったりしてつくられた電力をそのままフェスで使用します。

フェスが終わった後は、みんなで種を植えてそこに綺麗な池をつくり、土地を有効活用します。

「荒廃農地」を整備⇒フェス開催⇒池をつくる、を全国各地で行います。

荒廃農地とは？ 現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地 面積計 25.7ha

★再生利用が困難と見込まれる荒廃農地⇒16.3ha

(荒廃農地のうち、森林の様相を呈しているなど農地に復元するための物理的な条件整備が著しく困難なもの、又は周囲の状況からみて、その土地を農地として復元しても継続して利用することができないと見込まれるものに相当するもの)

・再生利用が可能な荒廃農地⇒9.4ha

(荒廃農地のうち、抜根、整地、区画整理、客土等により再生することにより、通常の農作業による耕作が可能となると見込まれるもの)

〈荒廃農地の特徴〉

・荒廃農地となる理由(土地)は、「山あいや谷地田など、自然条件が悪い」の割合が高く、特に中山間地域ではその割合は高い。

・「荒廃農地の状況は、5年後のようになっているか」に対し「増加している」と回答した市町村は、約7割を占める。

・山間地域の市町村では「再生された荒廃農地がない」と回答した割合が高い。

※農林水産省「荒廃農地の現状と対策」令和6年12月



〈荒廃農地が与える悪影響〉

- ・農地集積の妨げ
- ・**雑草の繁茂**
- ・山林原野化する
- ・水路の状況の目視での確認が困難になる
- ・病害虫発生の温床となる
- ・鳥獣の住処となり、住み着いた鳥獣が周囲の農作物を荒らしたりする
- ・**ゴミの不法投棄**を誘発することになる

〈荒廃農地を池に変身させたことによって起きる良い影響〉

- ・**農地に復活が厳しい土地を有効活用できる**
- ・**生物の生息・生育場所の保全**
- ・農業用水確保
- ・**地域住民の憩いの場となる**
- ・地域活性化
- ・景観の向上
- ・子どもが自然に触れる機会が増加